

# 令和7年度鶴岡市こども会議

## 報 告 書



令和8年3月 鶴岡市健康福祉部子育て推進課

## 目 次

I	こども会議の概要	1
1	目的	1
2	テーマ	1
3	参加者	1
4	日程・内容	2
5	実施体制	2
6	こども会議の様子	3
II	こども委員の提案と市の施策への反映	4
1	こども委員が考える「プレーパーク」	4
2	提案内容の傾向	4
3	こども委員の提案内容の施策への反映	7
III	こども会議の総括	9
1	こども会議に参加したこども達の評価	9
2	開催した市の評価	9
3	こどもの意見表明の機会創出と社会参加の場の創出について	10

〔別添1〕 令和7年度鶴岡市こども会議提案書



令和7年7月から8月に開催した「鶴岡市こども会議」について、その概要及び参加者からの提案内容、今後の施策への反映方針等について報告します。

## I こども会議の概要

1 目的 こどもや若者の夢や希望が叶えられるまちづくりを目指すため、こどもや若者から直接意見を聞く機会とする。

2 テーマ 「みんなが行きたいプレーパーク（屋外遊び場）について考えよう」

本市は、旧朝暘第二小学校跡地に、プレーパーク整備を計画している。プレーパークは、こどもの「やってみたい」を保障する屋外の遊び場であることから、こどもの「やってみたい」が反映された整備計画を検討するため、このテーマを設定した。

3 参加者 市内小・中学生7名

委員は市内在住の小学5年生から高校生までを対象に、6月2日～7月15日の期間で募集した。

期間中に応募があった小学3年生から中学3年生までの7名をこども委員として委嘱した。（小学3年生は対象外であったが、他地域のプレーパークに遊びに行っており、本市に整備予定のプレーパークに非常に興味を持っており、また、定員に余裕があったため参加を認めた。）

1日目のアイスブレイクで参加の動機を聞いたところ、「訪れた人が笑顔になるようなプレーパークを作りたい」、「みんなが楽しめる場所を作ってみんなと遊びに行きたい」、「ほかの学校のみんなと仲良くなりたい」などが挙げられた。

[参加者名簿]

No	氏名	学年
1	塚形 夕聖	中学3年
2	佐藤 創	小学6年
3	佐藤 かれん	小学6年
4	本間 芹依	小学5年
5	國領 明日香	小学5年
6	五十嵐 雪穂	小学5年
7	吉野 暁仁	小学3年

#### 4 日程・内容 日程は、参加者が参加しやすいよう夏休み期間とした。

また、参加者がそれぞれの意見を深めることができるよう、4日間の開催とし、そのうち1日は、プレーパークがイメージしやすくなるよう、実際にプレーパークを体験する日とした。

日程	内 容	
7月30日(水)	こども委員のみんなと仲良くなろう 行きたくなる遊び場をイメージしよう	・委嘱状交付 ・アイスブレイク ・ワーク①「あそび場について考えよう」 ・ワーク②「プレーパークを知ろう」
7月31日(木)	プレーパークに行ってみよう	・視察 あそびあランド(東根市)
8月6日(水)	プレーパークを考えよう	・視察のふりかえり ・ワーク③「みんなが行ってみたいプレーパークを考えよう」 ・ワーク④「自分が行ってみたいプレーパークのアイデアを提案書にまとめよう」
8月7日(木)	鶴岡市へ提案しよう	・ワーク⑤「山川海にあったらいいなと思うプレーパークを考えよう」 ・発表 ・提案

#### 5 実施体制

事務局は子育て推進課が担当し、進行や意見の引き出し・整理を行う役割としてファシリテーターチーフ1名(市職員)、ファシリテーター2名(市職員)、サポートメンバー4名(市職員)を置いた。

また、柏木拓人氏(元プレーパークプレーリーダー・現やまのこ保育園副園長・Shonai 地球倶楽部主宰)から協力いただいた。



柏木氏のワーク「プレーパークを知ろう」

## 6 こども会議の様子

### 1日目



### 2日目（視察）



東根市 あそびあランド



鶴岡市中央児童館野外

### 3日目



### 4日目



提案内容の発表



市への提案

## II こども委員の提案と市の施策への反映

### 1 こども委員が考える「プレーパーク」

こども委員どうしの意見交換や視察で得たアイデアを出し、委員それぞれが考える「行きたいプレーパーク」をまとめ、特徴やイメージを絵や文章で表現し、提案書として、市に提出した。

また、2つのグループに分かれて「山川海にあつたらいいなと思うプレーパーク」のアイデアを付箋に書き出し、とりまとめて市に提案した。

### 2 提案内容の傾向

ワークの中での意見交換や市外施設の視察や意見交換を通じて、「行ってみたいプレーパーク」について提案書としてまとめた。

#### (1) 「行きたいプレーパーク」の提案傾向と主な提案内容

##### ①自然の中での五感を使って遊ぶ場所

噴水等による水遊び、泥遊び、木登り、たき火などの自然を使った遊びや、ザリガニ・動物とのふれあいなどのいきものとの関わりを、全ての委員が提案しており、自然環境の中で身体全体を使って遊ぶことへのニーズが高い。

##### ②自分でつくる・表現する場所

工作、ものづくり、絵を描くなど、自分の手で何かを作り、自由に表現できる場所を求めている。

##### ③冒険と挑戦の場所

アスレチックやツリーハウス、大型のブランコ・すべり台など、既存の公園遊具には無いダイナミックな遊びへの強い関心がうかがえる。

##### ④誰もが居心地がよく過ごせる場所

休憩するところやトイレ、ベンチなど、長時間安心して過ごすための設備等を求める提案があった。また、目的を定めないフリーなスペース、高齢者のスポーツや中高生の学習、小さなこどもの遊び場、料理ができる場所など、年齢や目的を問わず、多様な過ごし方ができる場所を求める意見があった。

##### ⑤遊びが広がる場所

畑で育てた野菜を使って「料理をする」や「動物の餌にして、動物とふれあう」など、一つの遊びで終わるのではなく、様々な遊びに広げることができる場所を求めている。

##### ⑥見守ってくれる大人がいる安心感がある場所

こどもが主体的に遊びながらも、困った時に助けてくれる人、様子を見てくれる人がいる環境を求めている。

## 主な提案内容

こども委員 氏名	提案内容の分類					
	水・土・木・火 等の自然	いきもの・植 物	工作	活動	スポーツ・広 場	遊具
塚形 夕聖	水遊びができる噴水 水・泥遊びができる田んぼ ツリーハウス	生物がいる池	自由に工作 できる		広場でサッカーや野球等 たくさんの人と遊べる 屋根があるフリースペース	アスレチック 遊具
佐藤 創	水遊びができる噴水 水遊びができる浅いプール 泥遊びができる場所 ツリーハウス	ザリガニを飼育したり、つかまえたりする池	工作するところ		サッカーやバスケットボール等のボール遊び	長いすべり台 タイヤぶらんこ 土管
佐藤 かれん	水遊びができる噴水 穴を掘るところ 泥遊び 木登り	ザリガニ、メダカをつかまえることができる池 動物とのふれあい	物づくり 落書きコーナー			アスレチック
本間 芹依	水遊びができるプール 落ち葉を集めてたき火	動物と遊ぶ 田んぼでお米をとる 果物狩り 畑で野菜作りと収穫 竹を植えてたけのこ堀り	絵を描くところ	中高生が勉強するところ ピザ窯やかまどで料理をするところ 休憩するところ キャンプ	スポーツをするところ 高齢者がグラウンドゴルフをするところ 小さい子どもが遊ぶところ	ゴーカート
國領 明日香	ミストや風で遊ぶ場所 たき火で料理	動物とふれあい 花を植える		お店屋さんごっこ 料理するところ		3～4人が乗れる大きいブランコ
五十嵐 雪穂	水遊びができる噴水 水が流れるすべり台 水遊びをするプール 大きな木で木登り ツリーハウス たき火			休憩するところ	スポーツをするところ	でっかいブランコ でっかいトランポリン
吉野 暁仁	水遊びができる噴水 水・泥遊びができる田んぼ	ニワトリの飼育	遊びの設備や遊具の手作り ものづくり		何でもできる空き地	アスレチック タワー

## その他提案

プレーパークには、どんな人がいると良いか	安全確認する人、困った時に助けてくれる人、ミストや風を止めたり出したりする人、動物をある程度世話をしてくれる人、様子を見てくれる人、建築ができる人 など
設備	トイレ、更衣室、売店、ベンチ、机、水飲み場 など

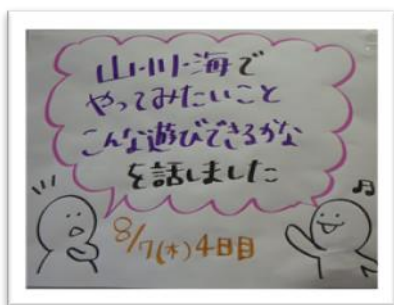
## (2) 「山川海にあったらいいなと思うプレーパーク」の提案傾向と主な提案内容

山・川・海いずれにおいても、自然そのものを遊び場として活用し、体験的に遊ぶことを求めている。

特に、川や海では水遊びや生き物とのふれあいに加え、カヌーやいかだなど道具を使った遊び、魚を焼いて食べるといった体験型の活動が多く提案されており、鶴岡の自然環境を活かした遊びへの関心の高さがうかがえる。

### 主な提案内容

	山	川	海
自然	山登り 自然を使ったアスレチック	水遊び 川下り 泳ぐ たき火 カヌー いかだ	泳ぐ 飛び込み
いきもの・植物	虫取り たけのこ掘り	釣り 生き物つかまえ	釣り 生き物つかまえ
遊具・道具	スキー ソリ滑り	カヌー いかだ	ウォータースライダー
活動	キャンプ ピクニック	キャンプ 魚を焼き食べる	バレーボール 魚を焼き食べる



### 3 こども委員の提案内容の施策への反映

市では、旧朝暘第二小学校跡地においてプレーパーク整備を計画しており、こども委員の意見は、「コミュニティ・子育て拠点整備基本計画」（令和8年3月）において、こどもの視点からの当事者意見として計画に反映した。

#### (1) 意見の反映状況

基本計画では、拠点全体を「交流ゾーン」「地域活動ゾーン」「冒険遊びゾーン」「憩いゾーン」「探求ゾーン」の5つのゾーンで構成しており、こども委員の提案は各ゾーンの計画内容に以下のとおり反映した。

##### ①交流ゾーンへの反映

こども委員が求めたスポーツや広場での遊び、イベントができる場所は、「交流ゾーン」に反映した。交流ゾーンは、キッチンカーの乗り入れが可能なイベント広場、芝の広場、既存のプラタナスを活用したテラスなどを整備し、多様な利用者が交流を行う拠点の中心エリアとして計画している。

##### ②地域活動ゾーンへの反映

こども委員から、勉強するところ、料理をするところなど、年齢や目的を問わず多様な過ごし方ができる場所を求める意見があった。これらは、「地域活動ゾーン」に反映した。地域活動ゾーンでは、コミュニティセンターと屋内遊び場施設（現中央児童館）が、遊び、運動、集会、芸術、学習、料理など様々な活動の場となるよう、両施設がお互いに補完する機能構成で整備する計画としている。

##### ③冒険遊びゾーンへの反映

こども委員が提案した具体的な遊びは、屋内外が一体となった常設プレーパークである「冒険遊びゾーン」の計画内容に反映した。プレーパークは、こども自らが道具や自然等の素材を組み合わせ、遊びをつくっていく遊び場として整備するものであり、こども委員の提案の多くは実現可能と考えている。

[冒険遊びゾーンの計画内容（例）]

- ・ 土（泥）・水遊び
- ・ たき火やピザ窯等を使った調理体験
- ・ 木登り、ツリーハウス
- ・ 工作・ものづくり・遊具の手作り・落書き・絵
- ・ 道具を使った遊び

こども委員が提案した「遊びの設備や遊具の手作り」は、プレーパークの「こども自らが遊びをつくっていく」という考え方そのものであり、冒険遊びゾーンでは、こうしたこどもの提案を可能な限り実現できるよう、利用者とともに遊び場をつくり上げていくことを想定している。

#### ④憩いゾーンへの反映

休憩所、ベンチ・机など長時間安心して過ごすための設備を求める意見は、「憩いゾーン」に反映した。憩いゾーンは、既存の山からの眺望を活かした散策路や頂上の滞在スペース、ベンチや机、ハンモック等を配置し、こどもも大人も休憩したり、のんびり過ごしたりできるエリアとして計画している。

#### ⑤探求ゾーンへの反映

こども委員から多く提案のあった、いきもの・植物との関わり（生物がいる池、花を植える、畑で野菜作り等）や、自然の中で五感を使って遊ぶことへのニーズは、「探求ゾーン」に反映した。探求ゾーンは、花が咲いたり実を付けたりする様々な植栽や起伏のある地形を整備し、視覚や触覚、嗅覚、聴覚など五感で楽しめる自然豊かなエリアとして計画している。

#### ⑥人的支援体制への反映

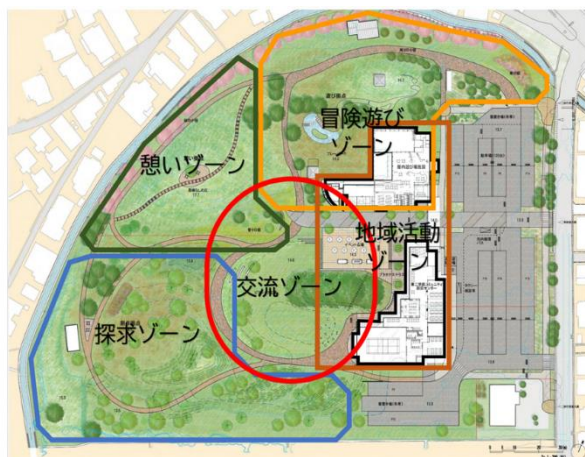
こども委員が求めた「困った時に助けてくれる人」「安全確認する人」「様子を見てくれる人」は、基本計画のコンセプト5「信頼する人、共感する人、支え合う人とのつながりの創出」における「地域活動や遊びを推進・サポートする人材の配置と養成」に反映した。

### (2) 今後の検討事項

動物とのふれあい等、こども委員から提案があったものの、今回の計画に盛り込めなかった内容については、今後の運営の中で実現の可能性を引き続き検討していく。

“でっかいブランコ”や“アスレチック”など、既存の公園遊具にはない、ダイナミックな遊びを求める意見があった。全国のプレーパークでは、こどもたちとプレーリーダー、地域の大人が協力してアスレチックなどの遊具を作成していることから、こうした手作り遊具については、供用開始後に、こどもの意見を聴きながら、運営上の課題や安全面を考慮し、実現していきたいと考える。

また、山・川・海でのプレーパークについては、鶴岡市の豊かな自然環境を活かした遊び場づくりとして、今後の遊び場施策の展開において参考としていく。



コミュニティ・子育て拠点整備基本計画

### Ⅲ こども会議の総括

#### 1 こども会議に参加したこども達の評価

最終日に、全日程を終えてこども会議の感想を聞いたところ、みんなで意見を出し合っただけでなく、自分の意見を言えたことに対して、良かったという意見・感想があった。

また、学年や学校の枠を越えて交流できたことに対しても、好評だった。個人からの主な意見・感想は以下のとおり。

- ・ みんなの意見も取り入れつつ、自分の意見も入れ、話し合いに参加することができた。
- ・ いろいろな意見を聞いて良かった
- ・ 自分の意見が言えた。
- ・ 参加したみんなと、いろいろ話ができ楽しかった。
- ・ 話し合いだけでなく、出かけて行きアイデアを出すのはすごく勉強になり、やりがいがあった。
- ・ 四日間は少し短かったが、すごく楽しかった。
- ・ 参加者のみんなととても仲良くなった。
- ・ 友だちができ良かった。
- ・ 来年も参加したい。

#### 2 開催した市の評価

こども会議は昨年度に続き、2回目であるが、昨年度と同様に、こども達は発想力豊かに、また大人が想像する以上にしっかりと自分の意見を持って発言できていた。また、4日間の活動を通じて、他者の意見を聞いたり、自分の考えをまとめた中で、こども達の考え方の変化や成長する姿が垣間見られた。

昨年度のこども会議では、3日目に県内の図書館や遊び場等への視察を行ったが、参加者が視察で交流できたことや、実際に施設を見たことで、その後の話し合いでは、活発な意見交換が見られた。

そのため、本年度は、3日目、4日目の意見交換を充実するために、2日目に視察を行った。その結果、昨年同様に活発な意見交換が行われた。プレーパークを詳しく知らなかった参加者も多くいたが、視察を経たことで十分に検討することができた。提案書においては、それぞれの理想とするプレーパークの理由や特徴が丁寧に示されており、市の計画の参考となる貴重な意見を多くもらうことができた。

### 3 こどもの意見表明の機会創出と社会参加の場の創出について

こどもの意見表明と社会参画は、令和5年に施行されたこども基本法において、日本のこども施策の柱として明確に位置づけられ、本市においても、令和7年3月に策定した「つるおかし こどもプラン」に、主要施策の一つとして“こども・若者の意見表明と社会参画の機会創出”を掲げ、「こども会議」を開催している。

こどもの意見は、公園の遊具、道路の安全、学校教育、地域の文化行事、公共交通等、行政のあらゆる分野に及ぶが、本市こども会議の主催課である子育て推進課だけであると、インフラ整備や都市計画、教育、産業振興といった他部局の所管事業に対して、直接的な施策反映や予算措置を行うことが難しい。

また、こどもが抱える課題は、教育、福祉、保健、防犯など複数の領域にまたがるのが一般的であることから、全ての部局が「自分事」としてこどもの声を聴き、課題解決に向かうことで、まちづくりに「こどもまんなか」の視点が反映され、施策の実効性が高まると考えている。

こうしたことから、本年度のこども会議では、こども会議主催課である子育て推進課、福祉課、コミュニティ推進課の3課共同で、旧第二小学校跡地の検討中であった「コミュニティ・子育て拠点整備計画」において整備予定のプレーパークをテーマに開催した。

3課の職員がファシリテーター等として運営に参画したことで、職員が直接こどもたちの生の声を聞き、その柔軟な発想や真剣にまちづくりを考える姿勢に触れることができたため、大きな刺激となった。この経験を各部署に持ち帰り共有することで、全庁的にこどもの意見を尊重し、施策に反映していく気運が高まることが期待される。

今後もこうした部署横断的な取り組みを継続し、こどもたちの意見を市政に活かす仕組みづくりを進めていきたい。